

令和6年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(能代市)

1 市の概要(人口 46,298 人)※令和6年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和6年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
2 園	2 園	4 園	1 1 か所	0 園	0 園	7 校

その他:個人 へき地保育所 小規模保育 事業所内 認可外1園

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 就学前施設において、保育士不足等を背景に、職員の育成が困難となっている状況が見られる。
- (2) 就学前施設、小学校職員双方において、接続期におけるこどもの育ちや学び、保護者支援に対する理解が徐々に進んできたが、組織内で共有することが課題である。
- (3) 特別な配慮を必要とする児童やその保護者に対する支援の在り方について検討が必要である。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目 的(3年間)

幼児教育・保育アドバイザーが巡回訪問等により、各施設の課題の把握や園内研修等に対する助言・指導を行うとともに、就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向け継続的に支援することにより、教育・保育の質の向上を図る。

主な内容(3年間)

教育委員会及び子育て支援課の連携による教育・保育の推進体制の充実

- (1) 幼児教育・保育アドバイザーによる市内全保育所等及び小学校への巡回訪問・助言等
- (2) 専門性向上のための職員研修会の開催
- (3) 就学前施設・小学校の職員を対象にした合同研修会の開催
- (4) 架け橋プログラムの推進
- (5) 県との連携体制の強化

年度別重点

令和4年度	部局間において、教育・保育の質向上に向けた取組に係る基本的な考え方を共有し、効果的な事業推進体制を構築する。
令和5年度	幼児教育・保育アドバイザーによる施設訪問や研修機会の拡充等を通して、幼保小におけるこども理解や保護者支援の相互理解を促進する。
令和6年度	各施設における主体的な研修の充実を図るとともに、架け橋期のカリキュラム開発の取組等により幼保小の連携強化を図る。

4 令和6年度の具体

目 的

乳幼児期は人格形成の基礎が培われる最も重要な時期であるとの認識のもと、就学前施設及び小学校職員等を対象とした研修会の実施や架け橋期のカリキュラム作成等を通じて、学び合う体制づくりを進め、接続期のこども理解や保護者支援に対する相互理解の促進を図る。

実施内容及び実施状況(中間)

- (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実

①教育委員会及び子育て支援課の連携による教育・保育の推進体制の充実

- ・幼児教育・保育アドバイザー1名を引き続き学校教育課へ配置

- ・事業への理解促進のため子育て支援課及び学校教育課職員による就学前施設への訪問の実施
 - ・子育て支援課及び学校教育課の意見交換、情報共有の機会拡充による連携強化
 - ・他市町村における取組事例等を参考に、就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた課題等の把握
- 就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた研修会等の実施により、相互理解が進み、具体的な課題が明らかになってきている。
- 年度初めの市校長会で幼保小連携、架け橋プログラムについて説明する機会をもち、事業概要について周知を図った。
- 架け橋プログラム等幼保小連携の取組を着実に進めていくため、部局間の協議を重ね、一層の相互理解を図っていく必要がある。

(2)「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

①幼児教育・保育アドバイザーによる市内全保育所等及び小学校への巡回訪問・助言等

- ・就学前施設における園内研修等でのアドバイザーの活用促進
- ・就学前施設及び小学校における課題、ニーズの把握及びサポート（随時）

◇令和6年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（能代市）

派遣実績 計 25 施設／全 25 施設 112 回	
回	・幼稚園：私立2園（12回）
数	・保育園：公立3園（27回）、私立8園（32回）
	・幼保連携型認定こども園：私立4園（19回）
	・その他の施設：小規模保育施設 1か所（ 回）、認可外保育施設 1か所（2回）、事業所内保育施設 1か所（ 回）
	・小学校： 7校（20回）
訪	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、11園（32回））
問	・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、 園（ 回））
内	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、1園（1回））
容	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、18園（44回））
	・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、18園（18回））
	（目標のうち、1校（1回））
	・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、11園（11回））
	・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、7校（21回））
	（目標のうち、2園（3回））
理	・事業周知及び実態把握等のため、各園、小学校に定期的に訪問する。
由	・幼保小連携の実態把握のため、小学校区ごとに連携・交流の情報を得て訪問する。
	・園のニーズを把握し、園内研修等に継続的に訪問する。

- 公立保育所3園で保育公開の在り方を協議し、市内全施設に向けて広く保育公開や研究協議を行ったほか、民間施設においても保育公開がコロナ後再開されたこと等により、園同士の連携が多く見られるなど、経営主体の違いを越えて、相互研修の範囲が広がってきた。
- 園内研修へのアドバイザーの参加依頼が増えており、アドバイザーの役割が広く認識されてきたことが感じられる。
- 園内研修の取組について、各園に合った効果的な在り方を追究するため、園内研修リーダーを育成する機会を充実させる必要がある。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

①保育実践力の向上に向けた研修会の実施

第1回保育研修会 参加者 25 名

開催日 6月11日（火）

場 所 能代市役所

内 容 講話 「遊びを深める園内研修の進め方について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

グループ協議 「ファシリテーターとしての園内研修の進め方」

〔参加者の感想〕

- ・園内研修について毎年悩むところだが、ヒントをいただいた。今年度、来年度以降の参考にしたい。自分でも園内研修についてもっと学びたい気持ちが芽生えた。
- ・「遊びを深める」というイメージだけでもそれぞれ違うことを知り、言葉にすることで共有し、同じイメージで研修を進めていくことが大事だと感じた。他の先生方と協議・対話を大切にしていきたい。
- ・「一人で抱え込まずにみんなを巻き込んで」という言葉をたくさん聞いた。ファシリテーターは先になって進めていく人というイメージがあったので不安感があったが、園内の先生みんなで子どもたちのことを語り合うことで、様々な意見や考えを知り、よりよい保育へつなげられることを学んだ。



第2回保育研修会 参加者 21 名

開催日 11月26日（火）

場 所 能代市役所

内 容 講話 「発達心理学の視点からみる子どもの世界」

講師 秋田大学教育文化学部 教授 山名 裕子 氏

グループ協議

「保育を見つめ直す」

〔参加者の感想〕

- ・自分が「できる・できない」の保育（見方）をしてしまっていることに気付くことができる講話だった。自分のクラスの子どもを「言葉が遅い」などと考えてしまっていたと反省した。明日からはその子個人をよく見て、その子に合った関わり方や援助をして長い目で子どもの育ちを考えていきたいと思った。分かっていたことでもつい、日常の保育に追われ、余裕がなくなり忘れてしまうことも多いので、改めて意識したい。
- ・いろんな先生方の意見や受け止め方を聞いて知り、抽象的なことを言語化することができた。このような交流ができたことを大事にしていきたい。



②就学前施設長情報交換会の実施（年2回）

幼児教育をめぐる情勢の現状把握、課題についての情報交換を主眼として、年2回実施している。

○子育て支援課主催の研修会を今年度も2回実施した。1回目は園内研修について年度の初めに実施したことで、各園の園内研修の見通しをもつことができた。2回目は専門家による保育の在り方についての研修を実施し、こどものとらえ方について見直す貴重な機会となった。

●保育・教育現場のニーズを考慮しながら、年間の保育研修の内容、回数等を検討する必要がある。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①就学前施設・小学校の職員を対象にした合同研修会の開催

令和6年度就学前・小学校合同研修会 参加者 23 名

開催日 7月31日（水）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 講話・演習「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

〔参加者の感想〕

- ・ 架け橋プログラムの必要性を感じた。教育・保育が連続したものであること、また、スムーズな接続が必要であることを再確認できた。関係者が共有できる環境、場の確保が今後も課題だと感じる。
- ・ 幼稚園や保育園の先生の視点を知ることができ、とてもよい時間になった。生活科について具体的に考えることが少ないので大変勉強になった。



②初任者研修への就学前施設職員の参加

能代市初任者研修Ⅰ 参加者 11 名 *採用3年目までの教員対象

開催日 5月22日（水）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 教育長講話

演習・情報交換

〔参加者の感想〕

- ・ 教育長の講話の中では、「先生」と呼ばれる立場としての責任感をより感じた。グループでのワークショップでは、今抱えている課題やこの2ヶ月でできたことを出し合ったことで、今自分のできることとできないことが明確になり、今後の保育に生かしていけることを見つけることができた充実した研修だった。



③就学前施設と小学校の相互理解促進のための幼保小連携推進協議会の開催（年3回）

第1回能代市幼保小連携推進協議会 参加者 26 名

開催日 5月14日（火）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 講話「あそびのチカラ～つなぐ・つながる・そだつ～」

幼児教育・保育アドバイザー 簾内 正子

協議「小学校区の交流年間計画作成について」

〔参加者の感想〕

- ・ 幼保小連携について改めてその重要性を確認することができよい機会になった。架け橋プログラムは小学校への順応が目的だと考えていたので、1年生だけでなく小学校6年間、更にはその先の中・高まで続く「学びの連続」であることを再認識することができた。
- ・ 遊びの中から見える学びを保育者が見出し、子どもの伸びる力や意欲を支えていくことが大切であると感じた。5歳児ばかりに着目するのではなく、乳児期からの育ちのつながりも見えていくことを心がけていきたいと思った。

第2回能代市幼保小連携推進協議会 参加者 24 名

開催日 11月13日（水）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

内 容 行政説明「『架け橋プログラム』の推進について」

秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司 伸子 氏

実践発表「『架け橋プログラム』の取組について」

二ツ井小学校 安井 敦子 校長

二ツ井子ども園 藤田 泉 園長

協議「教職員による連携や子どもの交流活動
等の振り返りと展望」



〔参加者の感想〕

- ・小学校入学前までこうしてほしいということが、就学前教育ではないということが一番印象に残った。園と小学校は違うという意識が強かったが、園での教育を少しでも知ることによって小1プロブレムの解決に役立つことを知った。つながりを意識しなければいけないと思った。
- ・行政説明は持続可能な連携を考えるときの基礎として大切に覚えておきたい内容だった。実践発表については、入学先が一つだからできることだろうと思った。協議ではそれぞれがもつ考えを伝え合えてよかった。
- ・いよいよ具体的に進む連携に、二ツ井地区の発表を聞き、イメージをもつことができた。あまり難しく考えずに進めていきたいと思う。

第3回能代市幼保小連携推進協議会

開催日 2月20日（木）

場 所 能代市役所二ツ井町庁舎

○幼保小連携推進協議会の年3回のサイクルが軌道に乗り周知されている。第1回で小学校区の交流計画を立案し、第2回は管理職を対象とした意見交換、第3回は連携の振り返りと就学児の情報交換というねらいで実施している。今年度は架け橋プログラム事業に関して話題にし、協議を重ね、次年度からの取組に生かしたい。

④架け橋プログラム事業に向けた取組

- ・モデル地域での架け橋プログラム実践

2つのモデル地域を設けて、架け橋プログラムに取り組んでもらいながら、成果や課題を具体的に把握できるように進めている。

i 二ツ井小学校区の実践 〔二ツ井小学校、二ツ井子ども園、きみまち子ども園〕

以前から交流・連携が行われている地域であり、相互参観、こども同士の交流等、年間計画に沿って実践されている。そのため、既存の活動を軸に、趣旨の理解を深めながら、架け橋プログラムに取り組んでいる。

ii 第五小学校区の実践 〔第五小学校、東能代幼稚園〕

今回新たにに取り組む内容が多かったが、相互理解の場を設定したり、交流・連携の活動を工夫したりして、実践を進めるにつれ、こども同士の交流、教員同士の連携が深まる実感を得ることができており、架け橋プログラムの趣旨に沿った連携が図られている。

- ・先進地視察研修

架け橋プログラム先進地（大館市）研修視察 参加者 21名

開催日 7月5日（金）

場 所 大館市 釈迦内小学校 釈迦内保育園

〔参加者の感想〕

- ・実際の交流の様子を写真やエピソードで教えてもらい参考になった。幼稚園と学校で連携を図り、その時々に応じて交流の方法を考え変容していく臨機応変な対応が素晴らしい。

- ・幼稚園・小学校の先生たちの関係性に驚いた。ここまでになるまでの話し合いの積み重ねや、共通理解を進める苦勞が感じられた。互いの歩み寄り、理解しようと受け入れる気持ちが必要だと思った。
- ・交流の目的をはっきりさせることで、子どもの何を育てたいのか、どう子どもに接するべきかが見え、有意義な時間となると感じた。架け橋の交流は互いに生活に入り込み体験をすることで子ども同士育ち合える力がある。課題は分野を超えて手を取り合う大人の側にあると感じた。



- モデル地域の実践を基に、第2回能代市幼保小連携推進協議会で、モデル地域（二ツ井小学校区）の中間実践報告を実施した。次年度の第1回で第五小学校区の実践報告を計画しており、次年度はすべての小学校区で架け橋プログラムに着手する計画である。
- 相互参観は参観日の設定の工夫等で、非常に多く見られるようになり、こども理解や遊びの見方等、幼児教育を見る目が広がってきている。さらに、公開保育、公開授業での研究協議への相互参加を目指しているが、まだまだハードルが高い。今年度はモデル地域で保育の研究協議への参加が実現し、一步を踏み出した。
- 地域のこどもたちの育成のために架け橋プログラムの意義を理解し、部局間連携を深めながら進めていく必要がある。

⑤幼児教育・保育アドバイザー通信「てのひら」の定期発行（月1回）

- ・能代市の就学前施設（17施設）及び小学校（7校）に配付

- 幼保小連携の研修会や交流の情報、園訪問で参観した保育の様子、園内研修の情報等を掲載し、就学前施設や小学校の連携等に活用できるよう、定期的に発行している。

（5）「県との連携体制の充実」

- ・県と連携しながら就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた継続的指導や支援
- ・就学前教育推進協議会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加
- ・県教育・保育アドバイザーの育成支援の活用
- ・県主催の連絡協議会等の事業を通じた他市町村との情報交換等

- 幼保小連携推進協議会、就学前・小学校合同研修会等、県の支援により、事業の意義を認識し、より有効な研修となるような助言を得て開催することができ、参加者の事業への理解が深まってきた。
- 県の要請訪問等への同行は、保育参観、研究協議の助言等、実際の保育を基にした保育の見方を知る非常に有効な学びの機会だった。
- 県主催のアドバイザー連絡協議会は、講話や演習など参考になることが多かった。また、他市と情報交換ができる貴重な機会だった。
- 他市アドバイザーに学ぶ会は、他市の教育・保育の推進体制づくりや、園へのかかわり方等を実際に学び、自己の園へのかかわり方を見直す機会として大変有意義だった。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和6年)の成果と課題

- 保育研修会や通信等を通じた情報発信により、徐々に園内研修へのアドバイザーの参加依頼が増えるなど、園内研修意欲の高まりが感じられる。
- 幼保小連携推進協議会や合同研修会等で幼保小の架け橋プログラムに係る講話や協議等を行うことにより、幼保小連携の必要性やこどもの学びに対する相互理解が深まってきた。

- 幼保小の架け橋プログラム実践のモデル地区では、幼保小連携の意識の高まりと具体的な連携・交流が見られるようになった。
- 各就学前施設における課題や願い等を把握し、幼児教育・保育アドバイザーを活用した教育・保育の質向上に向けた主体的な研修の充実につなげていく必要がある。
- 幼保小の架け橋プログラムの推進に向けて、部局間の役割の明確化と連携の強化を図っていく必要がある。
- 幼保小公開保育、公開授業での研究協議への相互参加の必要性について、さらなる周知が必要である。